

特集

ファーム移転報道で揺れる

千葉県 鎌ヶ谷の「ファイターズ愛」



炎天下の鎌ヶ谷スタジアム



▲新鎌ヶ谷駅の広告はひときわ目立つ

新庄監督3年目、エスコン2年目の北海道日本ハムファイターズは、CS進出に望みをつなぐ見事な戦いぶりで球団創設50年イヤーを盛り上げている。チームの躍進を支えているのは選手層の厚さであり、今季は2軍のイースタン・リーグも首位（8月2日時点）と絶好調だ。そうしたなか、2軍の本拠地移転の可能性が

報じられ、候補地と目される北広島市周辺の自治体では歓迎ムードが高まっている。しかし、北海道のファンよりも長く日ハムを応援し続けてきた千葉県鎌ヶ谷市民の心中は複雑だ。道民にはあまり知られていない、鎌ヶ谷のあふれる「ファイターズ愛」を紹介したい。（フリーライター・内海達志）

1997年からハムを応援

日ハムの2軍本拠地が、神奈川県相模原市から千葉県鎌ヶ谷市に移ったのは1997（平成9）年。当時の1軍がホームにしていた東京ドームとほぼ同規模の広さを有する鎌ヶ谷スタジアム（以下、鎌スタ）のほか、室内練習場、合宿所「勇翔寮」の3施設からなる「ファイターズタウン」が誕生した。同年に後

述する「ファイターズ鎌ヶ谷の会」が結成されるなど、市民の温かい声援を受けながら現在に至っている。日ハムが北海道へ移転したのが2004（平成16）年だから、7年も「ファン歴」が長いわけだ。実際、鎌スタへ行くと、地元をはじめ首都圏から集まったファンのパワーに圧倒される。炎天下で

の屋外球場は、選手にとって過酷な環境だが、ファンもまた汗だくである。快適でエンタメも充実しているエスコンフィールドとは、まったくの別世界といっている。ちなみに、筆者のプ

強風が個性であり、魅力といえるだろう。

鎌ヶ谷においては、そのマリーンズのファンとファイターズのファンが拮抗している印象がある。ビジター側が黒一色に染まるエスコンのロッテ戦をみればわかるように、千葉

県民の「マリーンズ愛」は相当に深い。

にもかかわらず、これほどファイターズを愛してくれるのは凄いいことなのだ。神奈川県川崎球場を本拠地にしていたロッテオリオンズが、千葉ロッテマリーンズに生まれ変わったのは1991



▲レジェンドの写真が並ぶ鎌ヶ谷スタジアム

（平成3）年であり、当然、その時点では鎌ヶ谷もマリーンズの金城湯池だったと思われる。つまり、6年後にファイターズの2軍がやってきて、多くの市民が宗旨替えしたことを意味する。もし、北海道のどこかの街にパの他球団の2軍が拠点を構えたと仮定

して、道産子はファイターズを簡単に捨てられるだろうか。かつてのファイターズが「東京」のチームだったとはいえ、マリーンズのお膝元で快く受け入れてくれた鎌ヶ谷市民に対しては感謝しかない。マリーンズの2軍本拠地は、さいたま市の浦和球場だが、浦和の場合は、一にも二にもサッカーの浦和レッズ。野球なら西武ライオンズのファンが多いだろう。鎌ヶ谷とファイターズほどの親密な関係性は存在していない。「鎌スタ☆ガイドブック」には、「大型ビジョンやプールエリアなど日本のファーム球場ではあまり見られない設備と充実したイベントで、家族みんなで楽



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)